


第36回 A-Forum プレゼンテーション
シドニー・オペラハウスの
専門性と総合性
山本想太郎

「テクニク・カルチャー」
19-20世紀建築の構法の詩学
ケネス・フランプトン著
松畑強+山本想太郎訳
(TOTU出版)

第八章 ヨーン・ウツソン ——
汎文化的形態とその結構の隠喩



「イラスト解剖図鑑
世界の遺跡と名建築」
東京書籍 ¥5200+税
著：ジョン・ズコウスキー
/ロビー・ポリー
日本語版監修：山本想太郎



みんなの建築コンペ論 新国立競技場問題をこえて



山本想太郎/倉方俊輔 著
発売日：2020.07.17
定価：2,860円

【建築・都市レビュー 第69号】

建築コンペは、公共的価値を高める装置として、広く行政に取り入れられ、建築的にも社会的にも価値のある建築物を、各所にもたらしてきた。

しかしながら、新国立競技場問題は、それが現代社会において本当に価値をもたらすものなのか、という問いを突きつけた。むしろ、そこであらわになったのは、建築界と社会との絶望的までのコミュニケーション不全であった。

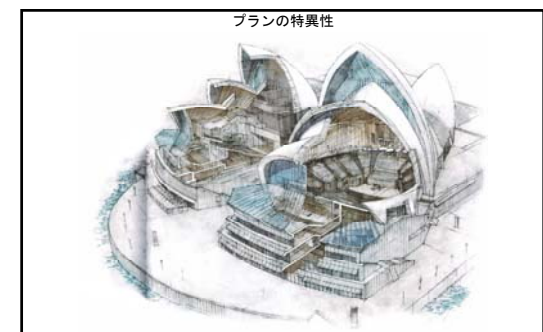
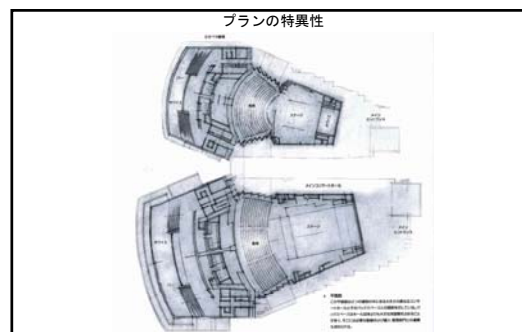
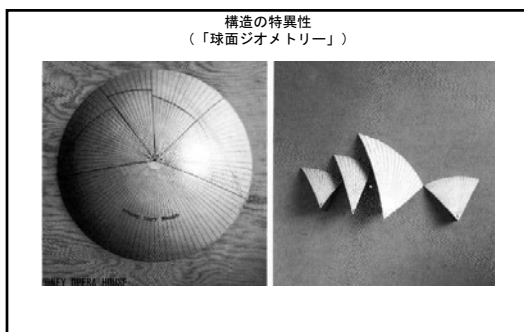
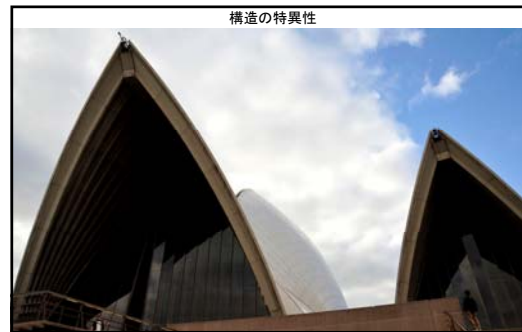
本書は、新国立競技場問題を見つめてきた、建築家と建築史家が、その失敗を検証し、建築コンペの歴史・現状を詳らかにしながら、現代社会にマッチする建築コンペのモデルを提案する。

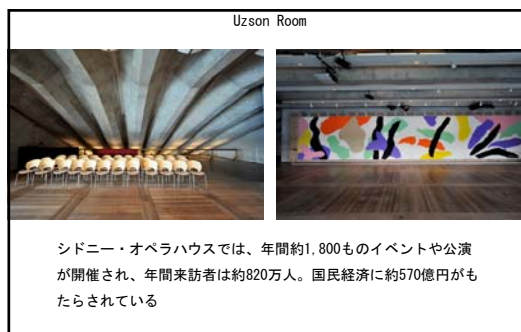
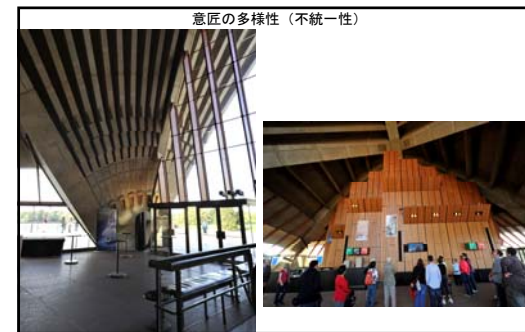
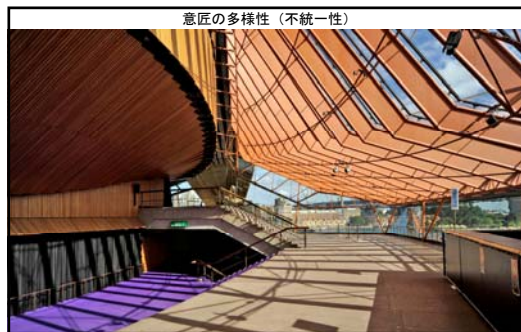
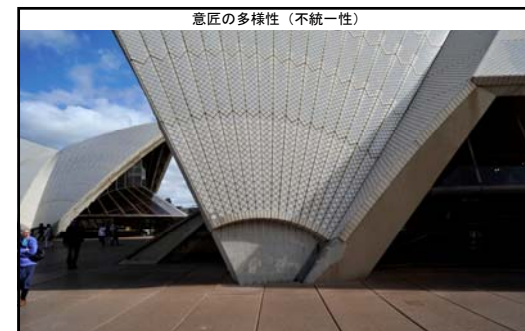
NTT出版




構造・構法・表現・機能の不調和








構造・構法・表現・機能の不調和
→ 近代的「合理」とは？

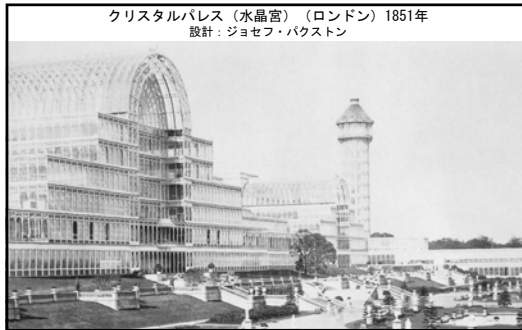


「・・・こうしたウツソンの提案は、結構的な考えと構造上の合理性が必ずしも一致する必要のないことを証明するものなのかもしれない。・・・ヨーロッパの建築の歴史ではこうした難問が、全面解決のほとんど一歩手前にいたったかのように見える二つの時代がある。最初はゴシック時代であり、次は鉄とガラスによる構法が完成をみた19世紀後半である。」
(ケネス・フランプトン 『テクトニック・カルチャー』)



ノートルダム大聖堂 1250年

「ゴシックの教会堂のことを考えれば、私が意図してきたところに近い。ゴシックの境界を見ていると、決して飽きることがなく、決して見終えるということがない。・・・太陽や光や雲とともに、それは生きたものをなしているのである。」
ヨーン・ウツソン
(Zodiac 14 1965年)



「構造表現主義が洗練の極みに達した」
(磯崎新 『構造表現主義の墓碑銘』 a+u 1973. 10)

「創造的な構想力と工業生産とを調停する『建築家の第三世代』」
(ジークフリート・ギーディオ 『空間・時間・建築』)

「構造と構法の表現性への関心による汎文化的形態」
(ケネス・フランプトン 『テクトニック・カルチャー』)

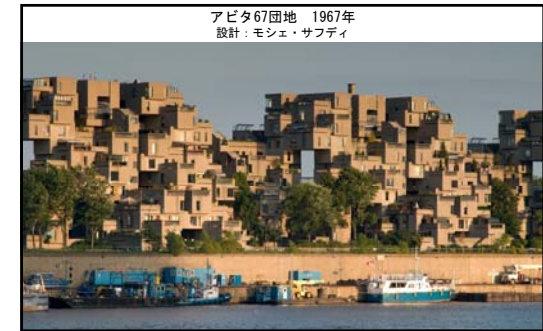
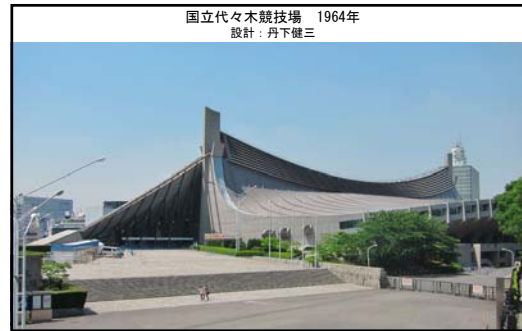
→ 近代建築から現代建築への移行の象徴

構造・構法・表現・機能の不調和

→ 近代的「合理」とは？

→ 技術・経済・社会などの各文脈の、「自律的な」高度化による分離





近代的な「合理」(＝専門性)
と
社会的合意(＝総合性)

- 1957 設計コンペ 233案の中からウツソン案が選定される
オプ・アラップが構造設計に参加
- 1959 着工 (予定工期4年)
- 1961 「球面ジオメトリー」の発明
- 1963 シドニーにウツソン事務所を移転
オーストラリア放送機構による大ホールの変更要求
- 1965 ニューサウスウェールズ州の政権交代
- 1966 ウツソンが設計担当を辞任、デンマークに帰国
ピーター・ホールを中心とする設計チームに交代
- 1973 竣工 (工事費 700万豪ドル → 1億200万豪ドル)
- 2003 ウツソンがプリツカー建築賞受賞
- 2004 ウツソンの設計によりウツソン・ルーム完成
- 2007 ユネスコ世界文化遺産に登録
- 2008 ウツソン死去

近代的な「合理」(＝専門性)と
社会的合意(＝総合性)

→ コンペによるプロセスとイメージ
の共有は社会に総合性をもたらす基盤
となりうる

